

「温暖化ファクトシート第2版」のご紹介

温暖化問題の筋金入りの専門家による興味深い指摘の数々をご紹介します。資料は、杉山大志著「地球温暖化ファクトシート第2版」(https://cigs.canon/article/20201125_5488.html)で2020年11月に発行された最新版です。著者の杉山氏は、気候変動にかかる国連IPCCの第5次報告書(2013)と第6次報告書(2019)の総括執筆者の一人だった方で、この分野の日本における最高レベルの専門家の一人です。資料自体は全85ページの大部なものですが、冒頭の「はじめに」を読むと概要が分かります。以下に引用します(太字はそのまま、青字部分は下線で表示)。

はじめに

地球温暖化に関する報道を見ていると、間違い、嘘、誇張がたいへんによく目につく。そしてその殆どは、簡単に入手出来るデータで明瞭に否定できる。

本稿は、そのようなデータを分かり易くまとめたものだ。

全ての**ファクト**について、その**ポイント**を1ページで箇条書きと図で簡潔に書いた。加えて、理解を深め正確を期する読者のために解説と文献を付した。

忙しい方は1ページにまとめたポイントだけでも全項目を読んで欲しい。

なお本稿では主に過去の観測データを論じ、シミュレーション予測について詳しくは扱わない。

観測データを見る限り、地球温暖化による被害は殆ど起きていないことが解る。報道では何か災害があると「温暖化の影響がある」等と結ばれることが多い。だが影響は量として把握しないと認識を誤る。定量的には温暖化の影響は「ごく僅か」であり、「温暖化のせいではない」と言った方が正確なものばかりだ。

他方で、シミュレーション予測には、おどろおどろしいものが多数ある。だがシミュレーションは、前提次第で結果は大きく変わるもので、方法論上の問題がある。「2050年CO2ゼロ」といった極端な政策を正当化できるとは思えない。

上記のような「はじめに」の後に、26項目に及ぶ「ファクト」が記載されています。以下に列挙します。

- 1 台風は増えていない
- 2 台風は強くなっていない
- 3 超強力な台風は来なくなった
- 4 地球温暖化は30年間で僅か0.2°Cである
- 5 猛暑は温暖化のせいではない
- 6 短時間の豪雨は温暖化のせいではない
- 7 豪雨は温暖化のせいではない
- 8 再生可能エネルギーの導入で豪雨は3ミクロンも減らなかった
- 9 2050年CO2ゼロでも気温は0.01°Cも下がらず、豪雨は1ミリも減らない
- 10 温暖化で死亡リスクは減少する
- 11 東京は既に3°C上昇したが繁栄している
- 12 山火事は温暖化のせいではない
- 13 海面上昇は僅かでゆっくりだった
- 14 シロクマは増えている
- 15 砂浜の消失は温暖化のせいではない
- 16 サンゴ礁は海面上昇で沈まなかった
- 17 エゾシカの獣害は温暖化のせいではない

- 18 災害による損害額の増加は温暖化のせいではない
- 19 食糧生産は増え続けている
- 20 気象災害による死亡は減り続けている
- 21 気候に関連する死亡は減り続けている
- 22 CO2は既に5割増えた。だが何も問題は起きていない。
- 23 気温予測の科学的不確実性は大きい
- 24 気温予測の前提となる排出量が多すぎる
- 25 シミュレーションは気温上昇を過大評価している
- 26 シミュレーションは気温上昇の結果を見ながらパラメーターを調整している

この中の幾つかの項目は、本欄でも取り上げたことがあり、覚えておられる読者もおいでと思います。例えば、気温と大気中CO2濃度の推移、台風その他の異常気象・サンゴ礁や山火事等と温暖化の関連、シミュレーション予測の問題点なども指摘しました。上記の杉山氏の指摘事項はいずれも本欄で私が述べてきたことと相反せず、逆に論拠を確かなものにして下さっています。詳しいデータも載っているので、大いに参考になります。原版は上記のURLからpdfファイルで入手出来ますので、ぜひダウンロードしてご覧下さい。

最近の世の中では「陰謀論」という言葉が流行っており、様々な論説が飛び交う中に「これは陰謀論だ」という決めつけがなされることがしばしばあります。地球温暖化に関しては、政府・報道機関・国連までもが「人為的CO2由来温暖化説」一色のためか、これに対する疑問や異議申し立てには「陰謀論」扱いするケースが多々見られます。要するに、こいつらは「トンデモ」の類であると。しかし、本物の(?)陰謀論は、大した根拠もなく客観的科学的データを示すことはさになく、まして自らの誤りを認めることなど絶対にせずに自分の主張のみを言い張るものです。片や、本物の科学は、事実・データに対して謙虚であり、自らの誤りに気づくなら即座にその修正を求めるのであり、その違いが、真正科学と似非科学を見分けるリトマス試験紙なのです。陰謀論や似非科学のもう一つの特徴は、自分の見たい(都合な)事実やデータだけを拾い集めて論拠にする点で、不都合で見たくないものには徹底的に目をつぶるという特性があり、この点からも見分けることができます。ここで紹介した杉山氏の資料がどちらに類するかは一目瞭然でしょう。

杉山氏の資料には全部出典が明記されており、私たちも簡単に入手できるものばかりです。従って、これらの指摘が正しいかどうか、実際のデータに当たって調べることができます。この点は重要なので強調しておきますが、他人の意見や情報を鵜呑みにせず、根拠となっている事実やデータの裏付けを得る努力は、常に必要なのです。場合によっては、統計データでさえも常に正しいとは限らないことにも注意しましょう。例えば、地球気温データなどでも、都合の良い値を選択すれば年々気温が上昇しているグラフが作成できます。生データ等との突き合わせが大切です。

国会中継等で議員さんや大臣たちが大真面目に「2050年CO2ゼロ」法案などを審議していますが、この人たちは、杉山氏が指摘なさっているような「事実」を果たして御存知なのだろうか？と疑問に思います。「2050年CO2ゼロでも気温は0.01℃も下がらず、豪雨は1ミリも減らない」という観測データに基づく科学的推論が存在するのに、知らないで議論しているのは、時間と労力のムダではないのでしょうか？そんなヒマとお金があるのなら、今困っているコロナ対策、医療従事者への支援や路上生活者の救済こそが現実的で喫緊の課題であるはずで、有権者である国民も、事実に基づく冷静で科学的な思考・判断を規範とすべきです。こんな人たちを選挙で選んだのは有権者であり、全ての結果は、主権者である国民の負うべき責任と言えます。

文責・副理事長 松田 智